

第5回白石町総合計画審議会 会議録（要旨）

■日 時 令和3年11月10日（水）午後7時00分～午後9時00分

■場 所 白石町役場庁舎3階大会議室

■出席者 委員：17人出席

町：副町長、総合戦略課長、長寿社会課長、企画財政課職員5人

【開会】

○事務局

今日は、会長から欠席の連絡を受けているので、本日の進行は副会長にお願いをしている。

【副会長挨拶】

○副会長

今日は会長が欠席ということで、私の方で進行をさせていただきます。

待ちに待った雨が降ったが、今度は急に寒くなって、今日は12月並みの寒さということで、体調を崩されないように注意していただきたい。

今日も皆さんの審議のご協力をよろしく願います。

【審議事項】

○事務局

審議事項については、副会長に進行をお願いします。

○副会長

（1）第3次総合計画策定に関わる調査結果に基づく審議を議題とする。事務局から願います。

○事務局（進行）

今回まで事務局が進行をサポートし、審議を進めていく。第3回、第4回、第5回でいただいた意見を第6回で取りまとめをさせていただいて皆

様方にお示しし、計画にどのように入れていくかをお示しする。

＜資料 第3次白石町総合計画策定に関わる調査結果に基づき、分野ごとに事務局より現状と課題や現在の取組、考えられる主な施策等の説明を行い、委員より意見を聴取し、議論を行った。＞

【学校教育】 【地域全体での子どもの育成】 について **(資料59ページから61ページ)**

○委員

学校教育について述べたいことは、大きく2つある。

1つ目は、中学校の再編。広報とか回覧板でもお知らせをしているが、令和6年4月に新設中学校の開校を予定している。現白石中学校の場所で、生徒数585名、各学年5クラス規模でスタート予定。今の白石中学校が平成7年度にスタートしたが、そのときの規模とほぼ同じということになる。これは、少子化による3中学校の不均衡が生じており、部活動も成立しないなど、少子化によりさまざまな問題が起こっている。この半世紀で子どもの数が3割に減った。向こう四半世紀でさらに半減する予測がある。これは全国的な傾向なので、白石町だけ例外というわけにはいかないので、それを見越して、中学校開校に併せて新しい給食センターも運営を開始する予定で、今の中学校の南側の駐車場のところに新しく給食センターを造り、町の新しい給食を中心とした食育もスタートできればと思っている。

食育については、本年度の学校給食甲子園が全国規模で展開されており、現在、白石町の給食センターのメニューが全国12校の最終審査に残っている。メニューがテンペの混ぜ御飯とか、あるいは煮じゃあとかをメニューに入れてもらっている。テンペは合併前から特産物として販売されているが、これを機会に再度光が当たればと思う。

この第3次総合計画は、令和7年度までの計画だが、小学校の再編も具現化しなくてはいけない。審議会から答申はいただいているが、あくまで

も答申であり、まだ具体的な小学校の再編計画というのは策定していない。鋭意進めているが、審議会当時に使っていた資料よりもさらに少子化が進んで、子どもの数がさらに少ない状況になった。昨年度の町内の出生者数は103名であり、中でも須古校区は3名となっている。このままいけば近々、複式学級が発生する。だから、答申をそっくりそのまま具現化をするというのは少し考えないといけないということで、慎重に審議を進めているところ。

2つ目に、教育内容の充実。学校の大きな役目として、教員免許を持った専門職が当たっているので、知識、理解、思考、判断力、表現力、こういった基礎、基本を子供たちに身につけさせることが大事。もちろん道徳教育や生活指導も重要であるが。現在、毎年全国学力・学習状況調査があつていて、白石町はほぼ県並み、全国並みで、本年度は中学校3年生の数学が県、全国よりもかなりよかった。あとは、小学校6年生の国語、算数、中学校3年生の国語は全国並みでしたけれども、義務教育は全国一律同じ指導をしているので、常にトップの秋田県とか石川県に負けているわけにはいかない。全国の平均以上の結果を残す努力は常にしていけないといけないし、全国の平均を上回る、県の平均を上回るとというのが一つの目標になる。

そこで大事になるのが読書。子どもたちの基礎、基本を鍛えるためには、語彙の獲得が欠かせない。私たちは、自分が持つてる語彙以上のものは考えられない。頭の中ではすべて言葉で考えているので、語彙以上のものを考えることができない。あわせて、語彙以上のものは表現できない。読書離れが今盛んに言われているが、現在の小中学生は読書をすごく頑張っている。問題は卒業してからで、学校のみならず家での読書を充実させていけないといけない。

それから、これからはICTを活用した教育も必要。GIGAスクールという名前で全国一斉に小・中学校へのパソコンの導入し、白石町も2学期から全ての小中学生に1人1台タブレットを配布し活用している。ネットでの授業もスタートしており、白石中学校の今年度の文化祭はネットでなされた。出場者だけ舞台上で発表を行い、その映像を撮って、あとの子供

たちは教室で見るといような形で実施されている。課題としては、現在、白石町の10%の家庭がWi-Fi環境が整っていないこと。小中学生が1,700人いるので、170人ぐらいの家庭がWi-Fi環境がないことになる。今後また感染症等で休校とか閉鎖というときにオンラインでの指導ができるような準備をしている。現在は、ネット環境がない家庭にはSIMカードを入れたLTEモデルを配布しているが、これからはどのようにしていくのか今後もう少し詳細な検討が必要。

4番目に少子化の中で、今こそ進めたいのが、小学校6年間、中学校3年間ではなくて、9年間を見通した小中連携教育。その中では、小学校の高学年にも国語、理科、英語とか専科の先生を入れたり、小中学校の人事交流を盛んに図るなどが考えられる。小学校の先生が中学校に行って、中学校の指導を身をもって体験して、また小学校に戻ってきてその経験を生かすということも進めたい。

それから、5番目に小中学校の統合再編により充実した部活動をさせてあげたいし、あわせて、いい成績もぜひ残していただきたい。また、町内に県立高校が2校あるので、高校との交流等を盛んに図ればよいと思っている。

続いて、地域全体での子供の育成だが、白石町コミュニティ・スクールを展開し推進している。簡単に言うと、家庭、地域、学校が連携、協働して子供に関わり、目標は、みんなで「おおどぼう」を育てるということ。

「おおどぼう」の意味はちょっと悪い子とかというイメージもあるけど、そうではなくて、進んで人と関われる子、助け合い、協力ができる子、失敗や困難にくじけないたくましさを持っている子と定義をしている。これは教育基本法13条の具現化する取り組みで、まだ全国では、実施率が3割いっていない。絶対必要だと私は思う。本町は全校導入から6年目に突入している。家庭・地域・学校のそれぞれの役割を再確認して「おおどぼう」を育てていきたい。

それから、地域全体での子どもの育成の2番目は、挨拶について。人と人とのつながりの基本は挨拶で、学校では99%くらいが活発に行っており、例えば、北明小学校は全国挨拶日本一を目指してスローガンを掲げて

やっておられる。一方で、学校では挨拶を頑張っているけども家庭ではどうかということで追跡調査を行い、結果、4割くらいしか行っていないことがわかった。6割くらいまでは伸ばしたいと思っている。

○事務局（進行）

現場の意見も踏まえてお話をいただいた。学校教育については様々な取組がなされていて、子育て世代の皆様など、聞きたいことがあるのではないかと思いますので、意見や質問があったらお願いしたい。

○委員

子どもたちの人数が少なくなっているということは、逆に先生は余るのか。先生の年齢層も高齢化が進むのか。自分が子供を持っている身としてどうなっていくのかなと思った。

○委員

教員の年齢は、50代が一番多くて、職員の年齢の分布が上の方に偏っている。そして公務員の定年延長も出始めているので、国家公務員からスタートして地方公務員である教員も間もなくスタートすると思う。そのような状況から教員の若返りはなかなか難しい。

○事務局（進行）

それでは、次の項目に進めさせていただく。

【生涯学習】について

（資料62ページから63ページ）

○委員

公共施設の借用をするときに利用料が高くないか。また、自治公民館の改修補助について補助の基準が高くないか。

○事務局

利用料は条例で定め、適切な使用料をいただいていると認識している。自治公民館の改修補助については、担当課に確認して個別に回答させていただく。

【スポーツ】（資料64ページから65ページ）

○委員

スポーツ推進員の定例会で出たことを3つお話しする。

1つ目が、町民スポーツ大会とか公民館対抗のバレーボールとかソフトボール大会のこと。ここ数年水害とかコロナ禍で中止されているが、地域住民の親睦を深めるという意味では今後も続けていきたいという話が出ている。ただ、コロナ禍でもあるので、コロナ対策を講じながら、あり方を見直す時期にも来ているかなという話が出ている。アンケートにもあったが、町民スポーツ大会に参加するのが苦になっている方もいるという声が結構あった。それと出場選手の減少が問題で、特に白石地域では小さな自治公民館対抗で行っている。世帯数が50世帯とかそういう小さい規模のところもあるので、小・中学生も減って、若者も減って、年齢別リレーが成り立たないので選手を隣の部落から借りているとか、そういうのが実情。それと、公民館対抗のバレーボール大会とかを見ても、出たい人はいるけど選手が集まらず、出場する公民館が年々減ってきている。白石地域4校区に限っては、有明地域のように公民館を幾つか統合して、そういう大会だけのための枠組みを見直そうという話が出てきている。プログラムも誰でも気軽に参加できるように見直して、続けていけたらという話が出た。

2つ目は、スポーツ・健康増進のまち宣言について。宣言はしたものどうなっているのかなと町民も思っているのではないかとスポーツ推進委員の中でも意見が出た。みんなが体を動かすことに気軽に参加できるような取組を是非進めてほしい。白石町は施設面ではよその市町より充実していると感じる。パークゴルフ場もあるし立派な総合グラウンドもあるの

で、地元町民の方に活用してもらうのはもとより県内外の他地域へのPRをして大会を誘致するとか、もっと有効活用したほうがよい。また、沿岸道路が開通したことによって、福富のマイランドを利用する人がとても増えているということを福富地域の方から聞いた。うまく活用すれば経済効果も高まるのではないかという意見も出た。ウォーキングやサイクリングコースを整備するとか、あと15時にラジオ体操を放送で流すとか、何かいろいろ考えられる。やっぱり白石町はスポーツ・健康増進のまちだからって、ほかの町の人たちから言われるようになるといい。

3つ目は、国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会のこと。白石町はソフトボール大会とグランドソフトボール大会の会場となる。視覚障害者の方や全盲の方も参加されるので、全国から来られた選手や関係者の方々が白石町の会場は施設面でも、対応もとてもよかったと言ってもらえるような会場にしていきたいという意見が出た。それから、資料に障害者をはじめとして、どんな人でも気軽にスポーツ活動に参加できる環境を整備するとあるが、これに関連して、公認障がい者スポーツ指導員の資格をスポーツ推進委員の中で取得されている方がいらっしゃる。取得するためにも、更新するためにも費用が要るけど、自腹で取られているので、町が助成をしてくれるととても助かるという意見が出た。

○事務局（進行）

スポーツ分野についてスポーツ推進委員という立場からいろんな意見をいただいた。

課題解決のためにはさまざまな取組が必要になってきて、今後の継続的な活動が必要になってくると考えられる。まずは2024年の国民スポーツ大会、それから全国障害者スポーツ大会もあるので、ここで一気にスポーツ振興の機運が高まる部分があるかと思うので、スポーツ・健康増進のまちづくり宣言を行っているおり、機運を高めてやっていくというのが一つ大事になってくる。総合計画の中にもしっかり記載が必要。

他に何かスポーツ分野で、御意見があればお願いしたい。

○委員

スポーツにはいろんな可能性があるものだと感じている。難しいかもしれないけど、国際大会規模のものを何か一つでもいいので白石町で行えないか。ワールドカップとかは世界を転戦して大きな人の流れを生むものになるし、例えば海外の選手が白石町で何かやっているのを子供たちが見れば、そのスポーツに興味を持ってくれるというのは可能性としては高いと思う。土壌としては歌垣ロードレースみたいなロードが既にあるので、トライアスロンなどそういうロードを使ったような種目に絞って振興を図るとよいのではないか。例えばハワイのトライアスロンとかは景色を楽しみながらというのも売りになっているので、白石町としては田園風景を見ながら走るというのも売りになると思う。投資ができるのであれば、スポーツ・健康増進のまち宣言も行っているので、町民としても依存はないのではないかと思う。

○委員

公民館の再編が今こそ必要だと思う。現在、白石町内に自治公民館が109単位ある。福富地域は、9単位でそれなりの世帯数があるが、白石地域、有明地域が20戸に満たない自治公民館単位がある。特に白石地域は遠江地区辺りが非常に少ない世帯数となっている。こういった中で、例えば公民館の行事や災害対応でも、1つの団体として機能しない状況で、これを行政主導ばかりではいけないが、地域と一緒に再編するというのを第3次総合計画の期間中にお願いしたい。役員の成り手がなく、いろんな行事も単独ではできない状況になってきているので必要かと考えている。

それから、町民運動会とか公民館対抗スポーツ大会の見直しも生涯学習課で進めてもらっている。公民館対抗スポーツ大会としては、バレーとかソフトボールがあるが、競技スポーツに特化しすぎて私には関係ないと思っている方が多い。それもあっていいが、反面、親睦に特化したものが必要だと思う。例えば、先日は、国スポ、全障スポの学校訪問で、白石小学校が県内一発目でボッチャをしたが、お年寄りでも障害のある方でも年齢

を問わず、男女を問わずできる。そういう親睦を大きな目標にしたものと競技色の強いものを色分けして考えていけないといけない。

参考として、多久市はスポーツピアということで、一般の方の競技が10種目ぐらい常時活動しておられる。そこに中学生の部活動も、週に何回か参加して一緒に練習している。白石町でも剣道やソフトボール、バスケットなどが強いのでそういう取組ができればなと思う。

また、町内でも、かなりの方がウォーキングをされている。年に1回は白石町ウォーキングフェスティバルとか一堂に会して、熊本まで見える堤防の上を歩くとかやったら盛り上がると思う。そういう軽スポーツ、健康をメインにやっておられる方が集まってやられるというのが今からどんどん出てきてほしい。

○事務局

いただいた意見は計画策定段階でしっかり検討させていただきたい。時間の都合もあるので、次に進む。

【町民参画の推進】（資料77ページから80ページ）

○委員

須古地区の地域づくり協議会の活動をご紹介したい。この場に地域づくり協議会の須古の協議会の副会長もいらっしゃるの、もし付け足しがあれば後でお願いしたい。私の役割は、協議会の書記、広報という形で、活動を見える化して皆さんによりよくお伝えして、こういう活動に意味があるということを発信していく立場になる。6月に設立して半年ぐらいたったが、今回のアンケート調査で出ている地域行事に関わる30代から40代のストレスが大きいというところで、地域づくり協議会がどのように対峙して向き合っているのかという部分を2点にまとめてお話しさせていただきたい。

まず一点目。30代から40代の働き盛りの人たちは同時に育児もあつたりして、忙しく手が離せないという現状があり、このような年代の方が

大きなストレスを感じているというのは、今回のアンケートも踏まえ、地域でもそういった意見があるとそれぞれが感じていることだと思う。この要因の一つとしては、地区の清掃活動や行事、お祭りへの参加依頼のやり方が、基本的に人口が減っているにもかかわらず何十年も変わらないやり方で行っているというのが要因ではないかと協議会でも話がある。強制参加みたいな部分が若干あるということ。それが1点。

それと、もう一点。これはかなり重要だと思っていて、例えば白石町でいうと、昔は農林水産業で生計を立てている人が多くて、まだ核家族も少なかったと思う。じいちゃん、ばあちゃんと一緒に住むということが多かったと思うが、核家族になっていい面もあるとは思いますが、逆にこういった地域活動だったり伝承されるもの、伝えていくものに関して言えば結構マイナスになることが多い。要は、何でやるのかというのを伝えにくい環境となっている。どんどんやる意味が伝わりづらくなっているという現状があって、その状態で若者にいきなり年齢が高い方たちからやれよと言われたときに、何のためにやるのかわからないという状態になる。普通そうなるだろうと思う。そういうことが現状として起きている。

先ほどの最初に言ったことと関係するが、人数が少なくなっているのに同じ役割を当てつけて仕事量が増えているという状況にあったり、30代から40代が事務的なことも動けるので任されているところがストレスの大きな要因じゃないかと推測される。昔は、こういう問題を区長さんだったり公民館長さんだったり地域のリーダーと言われる人たちがいろいろ相談に乗ったりとかで対応してきたかもしれないが、それもだんだん機能しなくなってきている。そこを一まとめにして課題を協議会として話し合っ、どうやったら効率よく、無駄と思われているものをいかに無駄じゃない状態に持っていくかというのを今進めている。

まとめると、人口減にもかかわらず、そういう地域行事、清掃、お祭り行事、スポーツ活動のやり方が変わってない。また、時代の変化によって意味などをきちんと伝える人がいなくなったということが一つ大きな要因。

また、町民アンケートの意見として、地域のつながりが弱いところは人

の流れが多く、地域のつながりが強いところは人が入ってくるのが少ないという話があったと思うが、これは個人的な意見だが、捉え方を間違えると結構危ないと思っている。基本的には、地域のつながりが強いから人が入ってこないのではなくて、人が入ってくることで必然と地域のつながりが弱くなっているだけ。だから地域活動をやめると人が必ずしも入るといふことにはならないかなというような個人的な見解を持っている。

それで、須古地域づくり協議会は、最初に話した、強制参加、昔のやり方を変えるというところと、どのようにして若者でストレスを抱えている人たちに対して情報を伝えて、ちゃんとした意味のあるものにしていくかが重要だと思っているので、そこに対して今取り組んでいる。やり方としては、協議会では子ども部会とか魅力づくり部会を設置しているが、保護者、子育て世代、働き盛りの世代の人などの参加される側の方たちが参加しやすいような配慮をしている。特に子ども部会では、女性に対して参加しやすい行事をつくろうということで取組を考えている。それは、魅力という部分にもつながっていく。また、防災部会では、基本的にどんどん人が減っているので、いかに少ない人口で安全・安心な環境を守ることができるか、どうやって行政と連携しながら住民自ら助け合いができるかという仕組みづくりを検討している。いかに従来のやり方ではなく、効率的に意味のあるものにするということを、問題意識を持って取り組んでいる。

そして、その協議会の活動のもう一つの意義として情報発信がある。情報伝達が従来のやり方では、回覧板等があるが、30代、40代の人たちが回覧板を見るかといったら、ほぼ見ない。そのまま回すというのが現状。何をみているかというネットやSNSを見ているというのが現状なので、そこにちゃんと情報を載せとかないといけない。若い人達がどのように情報を得ているのかりサーチした上で、その手段を使いながら活動の意味を伝えていく必要がある。協議会として11月の中旬からSNSを通して30代から40代のストレスが、意味を理解することによって軽減できればよい。

最後に、協議会と行政との関わり方だが、協議会で活動している役員の

方たちがすごく町のことに詳しい人たちが集まっているので、回っているという実感がある。町議会や町職員の役員が行政との情報伝達をうまく取り持ってくれている。これから協議会を今後つくられるところは、町のことに詳しい立場の方がいることによって、町の予算だったり、マンパワーだったり、そういったところもきちんと協議会で地域住民の人たちに情報が伝わることになるので、できればそのような立場の方が役員に入られた方がよい。

○委員

須古地域づくり協議会の話をしていただく。区長会や公民館長会、あるいは生産組合長会とかいろんな団体が一生懸命それぞれに活動されているが、それぞれの団体の人たちが一堂に会して話し合う場がこれまではなかった。区長会は区長会で課題を抱えてあり、公民館長会は公民館長会で課題を抱えてある。婦人部は婦人部で課題があるというのが、解決の糸口が見つからないうちに次々に役員が交代していく。だが、色んな組織の問題点を協議会の中に持ってきていただいて組織間で連携することで解決するような仕組みづくりができていくと考えている。

○事務局

一点だけ補足させていただく。80ページの3行目に総合戦略において現在の小学校区にそれぞれ8協議会ということをしているが、現在、有明地域については、有明地域に一つでまとまるのかもしれないという動きと、小学校区自体が統合再編の影響があって、必ずしも8校区ということにこだわらないという部分もあるので、この辺は協議をさせていただきたい。

町では、地域づくり協議会の設立を推進しているところで、須古地区では順調に設立、運営に至っている。須古地区は特にそれぞれ地域で醸成されてきた根っこにある、地域の価値とかあるいは問題点をまず再確認するという作業から始められた。そこを起点にこれからの未来図を描いて実現しようとしている。何でこのようなことを話すかという、若い方とい

うのは未来を担うことになってくるので、その若い方の皆様が話の中に入って行って活躍いただくということは非常に重要と考えている。これについては、周りの皆さんの対応も大事。先ほども話があったが、文化の継承だとかそういった部分は非常に大事なことなのだと思うが、従前のやり方だけに固執することなく若い人たちが活躍できるように、若い人が住みやすいような町になるように若い世代の皆さんの意見、これに耳を傾けるということは非常に重要じゃないのかと思っている。地域づくり協議会では、若い世代の方に出番が回ってくるようなそういう場の創出が期待されるので、私たちもそれを推進していきたいと考えている。

今後だが、住民参加による意思決定というのができる場、そういう機会が増えてくると思うので、また住民の皆さんで合理的な方法だとか改善点などを話ながら、行政と地域のよりよい協働の形を模索していきたい。

○事務局（進行）

アンケートの結果が町を取組とは反したところがあるのかなという部分があったので、こういう意図で取り組んでいるというのを何名かの委員さんに意見をいただいた。各発言のような意図で町、地域づくり協議会の設立支援に取り組んでいるので、審議会委員の皆様もご理解をお願いしたい。

【適切な行財政運営・効率的な行政運営】

（資料 8 3 ページから 8 6 ページ）

○事務局（進行）

この分野について意見等がなければ次の項目に進めさせていただく。

○事務局（進行）

資料のこと全般について意見等あればお願いしたい。

○委 員

ゆうあい図書館で借りた本をポストを設置するなどして、有明地域や福富地域でも返却できるようにしたら借りる人が増えるのではないかと。

○事務局（進行）

担当課に話をさせていただく。

○委員

町民協働によるまちづくりの話があったが、個人的な意見を申し上げたい。

先ほど須古地区から、モデル地区になられているので、非常にいい話を聞かせていただいた。今年は六角が協議会を立ち上げられてモデルになっていると思うが、この組織は私は非常にいいと思う。本当に地域の助け合い組織であり、今からはこういう組織が必要になってくるんじゃないかなと思う。そこで、町として各地区にこういう組織を作りたいということであれば、地区からの手上げ方式ではなくて、行政側からお願いして作ってもらうわけにはいかないのかと思う。ただ、地区によって誰かがリーダーシップを執らないとなかなかできないところもあると思うが、町としてつくってもらいたいということであれば、モデル地区は須古、六角ぐらいまでにして、あとの地区はつくってくださいということで強く要請をすることができないのかなと私は思う。

町から地域づくり協議会の説明会があるのは、区長会とか公民館長会の場で説明がされていると思うが、区長や公民館長は1年とか2年で交代される場所もある。せつかく話を聞いても進める前に交代しないといけないというふうな実情があるのではないかなと思う。だから、できれば早い推進をお願いしたい。

○事務局

8校区で住民説明会を行い、今年もモデル地区を指定することになっている。しかしながら、現実的には先ほど言われる意見のようにどうやって最初のほうで進めていったらいいかわからない、どういう組織の設置が望ま

しいのか分からないという疑問はかなり感じられるだろうと実感している。ここは住民の皆様が主体的に行って、いただきたいということで、行政側から主導してということは避けきたが、やはりキーマンになる方というのは必ず必要だと思うので、このあたりは非常に課題だと思っている。キーマンになるような方を見つけるなど、実行的な働きかけも今後していきたい。

○副会長

他に意見がなければ（２）その他に進む。何か意見があればお願いしたい。

なければ事務局から事務連絡をお願いします。

○事務局（進行）

次の審議会は、12月1日の水曜日を予定している。次回につきましては、第3回、第4回、第5回でいただきました意見を反映させた計画の素案を皆様方にお示しする。

副会長：ほかになければ進行を事務局へ戻す。

【閉 会】

○事務局

本日までに3回にわたりまして各施策分野に様々なご意見をいただいた。次回は12月1日、これらの意見を酌み取る形で総合計画の素案という形でお示しできるかと思うので、次回もよろしくをお願いします。